

PALM8 慰霊行事における吉野復興大臣挨拶  
(5月18日 於：いわき海星高等学校)

本日、「太平洋・島サミット」の慰霊行事の開会にあたり、復興大臣として、  
謹んで追悼の言葉を申し上げます。

はじめに、「島嶼国・地域」から多くの首脳の皆様にご参列いただき、感謝申し上げます。

2011年3月11日の東日本大震災において、  
多くのかげがえのない命が失われました。  
ここ、いわき市でも、467名の方が  
お亡くなりになりました。  
心から、哀悼の誠を捧げます。

発災直後から現在に至るまで、「島嶼国・地域」の方々からは、救助隊の派遣、寄付金の送付、文化活動や人の交流など、様々なご支援をいただいております。

私を含め、被災地の人々は、このようなご支援が

あったからこそ、後ろを振り返る時もあります。前に進むことができました。あらためて感謝を申し上げます。

さて、震災後の復興は着実に進んでおります。地震・津波被災地域のインフラはほぼ復旧いたしました。避難者の数は、ピーク時の47万人から6万人台へと減少しております。

しかしながら、今なお多くの方が避難生活を余儀なくされ、支援を必要とされております。引き続き、心のケアなどの施策を講じていくことが必要です。

原発事故が起きた福島県での、放射性物質の空間線量率は、大幅に低減いたしました。

ここ、いわき市を含む福島県内の主要な市町村の空間線量率は、ニューヨークやパリとほぼ同じで、多くの人々が通常の生活を送っております。

2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京大会では、一部の競技が被災地で開催され、世界中から多くのお客様をお迎えいたします。その際に、今日よりさらに復興した姿をお見せできるよう、「閣僚全員が復興大臣である」という総理のご指示の下、全力で取り組んでまいります。

最後に、復興を成し遂げることが、亡くなられた方々に対する何よりの慰霊になると信じ、復興に全力で取り組む決意を、あらためてお誓い申し上げ、哀悼の言葉といたします。

2018年5月18日

復興大臣 吉野正芳